



会員と共に成長するレーザー学会

加藤 義章[†]

The Laser Society Which Grows with the Society Members

Yoshiaki KATO[†]

2014年6月1日からレーザー学会会長を務めることになりました。「光の時代」にあって、会員の皆様と共に成長するレーザー学会を目指して参ります。よろしくお願ひ致します。

レーザー学会は1973年にレーザー懇談会として発足し、1979年に社団法人レーザー学会になりました。2012年4月1日に一般社団法人レーザー学会に改組され、昨年創立40周年を迎えましたが、この間、会員との距離が近い「親しみやすい学会」として成長してきました。

レーザー学会は、「レーザーに関する研究の進歩普及を図り、もって学術の発展に寄与することを目的とする」(定款第3条)レーザーに特化した我が国唯一で、世界的にもユニークな学会です。学会誌「レーザー研究」は、オリジナル論文による研究発表に加え、急速に進展している分野を特集として扱い、研究最前線の把握に適した場になっています。また、6支部(東北・北海道、東京、中部、関西、中国・四国、九州)を中核として「学術講演会年次大会」を毎年各地で開催し、最近では600-700名が参加者し、300以上の講演が実施される大変活発な発表・交流の場になっています。さらに、多様なテーマに関し「研究会」が各地で開催され(2013年度17回)、特定テーマについて深く議論する「技術専門委員会」も実施されています(2013年度は13の委員会)。

レーザー学会は展示会レーザーEXPOを1994年から主催していますが、2009年から本会賛助会員が開発した優秀な製品・新技術・実用化を「レーザー学会産業賞」として、この展示会において表彰しています。さらに、わが国から世界に向けて積極的に情報を発信し、光・フォトンクスの国際的発展を毎年定点観測する場として、国際会議OPTICS and PHOTONICS International Congress(OPIC)を2012年から開始しました。レーザーEXPOを含む国際展示会OPTICS and PHOTONICS International Exhibition(OPIE)を併催し、研究と産業の相乗的発展を図っています。OPICは複数の専門国際会議で構成され(2014年は9会議)、各専門国際会議は夫々の会議議長の企画により独立に運営されるユニークな形態をとっています。OPICは3年を経たばかりですが、OPIC2014は参加者782名(前年比15%増、海外比率27%)、発表論文数570件(前年比35%増)になるなど、年を追うごとに国際会議にふさわしい規模と内容になってきています。レーザー学会は、Asia Pacific Laser Symposium(APLS)を韓国光学会、中国光学会との共催により3国持ちまわりで1998年から隔年で開催してきましたが、OPIC開催も加わり、レーザー学会が国際的にも広く知られるようになってきました。

近年国際環境が大きく変化し、産業競争力強化や高度人材育成が各国で推進されるなど、世界は大競争時代に突入しています。ICTとものづくりを融合した「21世紀の産業革命」が提唱されるなど、大きな変革期を迎えています。レーザー・フォトンクスはイノベーション実現のキーテクノロジーと位置づけられ、大規模なプロジェクトが世界で活発に推進されています。わが国では、光技術の高度化・深化に加え、「他分野との融合による新分野の開拓」が、光分野の活路を開く上で極めて重要であると指摘されています。

レーザー学会は、この大きな変革期にあって、会員のニーズを的確に反映した学会でありたいと考えております。特に、大学・公的機関・産業界の緊密な交流と切磋琢磨による新分野の開拓、若手研究者育成、女性研究者参画の促進などに重点をおきつつ、「会員と共に成長するレーザー学会」にしていければと思っております。皆様のお声をお寄せいただければ幸いです。

[†] 光産業創成大学院大学(〒431-1202 静岡県浜松市西区呉松町1955番1)

[†] The Graduate School for the Creation of New Photonics Industries, 1955-1 Kurematsu-cho, Nishiku, Hamamatsu, Shizuoka 431-1202